

Table with 5 columns: 本館・新館場所, 診療科名, センター名, 診療日, 休診日. It lists various departments like Internal Medicine, Surgery, Pediatrics, etc., and their respective clinics and schedules.

●休診日 日曜・祝日・振替休日・盆休(8月15日)、年末年始(12月29日～1月3日) 平成24年6月現在

交通のご案内

Navigation guide for Fukuoka University Hospital. Includes sections for: 自家用車で来院の方へ (Private car), 国道202号線バイパス (Route 202 bypass), 地下鉄七隈線 (Subway), and バス (Bus) routes.



福岡大学病院 〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45-1 TEL (092)801-1011(代)

発行：医療情報部 URL：http://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/

福大病院ニュース



福岡大学病院の基本理念 あたたかい医療

- 高度先進医療の指導的病院
● 健康のための情報発信基地
● 地域に開かれた中核的医療センター
● 社会に必要とされる優れた医療人の育成
● 社会のニーズに忘れる患者中心の医療の提供

患者さんの権利と義務

医療は医療者と患者さんとの信頼関係で成り立っています。福岡大学病院では、信頼され安心して受診していただける病院を実現するため、患者さんの基本的な権利を明確にしてこれを職員一同が認識すると共に、患者さんにも義務を守っていただくことをお願いします。

《患者さんの権利》

- 1. 受療権
2. 選択権
3. 自己決定権
4. 知る権利
5. プライバシー保護権

《患者さんの義務》

- 1. 情報提供義務
2. 状況確認義務
3. 診療協力義務
4. 医療費支払い義務

腎臓・膠原病内科 教授  
診療部長

医師 中島 衡

## 腎臓から全身疾患の膠原病まで

平成24年4月より腎臓・膠原病内科診療部長となりました中島 衡です。どうぞよろしくお願いたします。腎臓・膠原病内科は腎臓内科と膠原病内科の2つ診療科を担当し、診療、教育、研究を進めております。

### 診療

腎臓内科の主な診療内容は、腎炎およびネフローゼ症候群の診断と治療であり、多くの場合、腎生検により確定した組織診断に基づくきめ細かな治療を行います。腎生検の組織は、病理部で行われる光学顕微鏡、蛍光抗体法、電子顕微鏡標本により診断され、その結果をもとに当科で綿密な治療方針を定めています。さらに、急性および慢性腎不全の診療では、保存的治療だけではなく、必要に応じ末期腎不全における透析療法も行っています。透析療法のうち、いわゆる人工腎臓による血液透析は、血液浄化療法センターにて昼夜2サイクルで実施していますが、状況に応じて適宜行っています。また、血液透

析の技術を応用した血液浄化療法として、難治性の腎疾患、膠原病および自己免疫疾患に対して血漿交換療法やLDLアフェレーシス、免疫吸着療法も行っています。膠原病は、単一の疾患名でなく、免疫の異常を基盤とする、全身性炎症性疾患の一群の総称です。代表的な疾患には、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、混合性結合組織病、血管炎症候群、シェーグレン症候群、ベーチェット病、成人発症スチル病などが属しています。発熱、皮疹、関節痛などを初期症状としますが、全身の結合組織から、腎臓や肺をはじめとする多臓器を障害する慢性再発性の難治性疾患へと進展します。免疫の異常と全身の炎症とがその病態に深く関わるため、副腎皮質ステロイドホルモンや、免疫抑制薬等の治療が必要となります。なかでも腎障害は、肺障害とともに、膠原病に多く併発する臓器障害です。当科では膠原病専門医と腎臓専門医との協力により、免疫学的な発症機序を考慮しつつ高度な治療を行う事が出来る環境です。免疫抑制状態における感染症に対する治療や対策に大きな注意を注いでいます。さらに、関節リウマチに対しては、各種生物学的製剤の治療導入が著しい効果を示しています。

### 教育

医学教育に関しては、当講座における専門領域が、全身的疾患の診療に深く関わっておりますので、全身を診る医療を心がけるべく指導しています。主訴、現病歴から、検査、治療方針といった問題解決型診療の流れを理解、修得する事も目標としています。また、臨床医に最も要求されるのは、“豊かな感性”を持つということだと思っています。目の前にいる患者さんのお気持ちや情報を漏らさず捉えることが出来るように、そして患者さんの背中を押して、患者さんと一緒に病気に立ち向かう姿勢をとれるように指導しています。病む人たちを感動させ、心にしみる医療が出来る臨床医に育てて欲しいと思っています。

### 研究

臨床研究は、診断の精度を上げて、より優れた治療法を確立するために欠くことができません。腎臓・膠原病に関しては、厚生労働省の難治性疾患克服事業で、「進行性腎障害に関する調査研究」における難治性ネフローゼ症候群の診療指針作成に中心的役割を担っており、「難治性血管炎に関する調査研究」でも臨床研究を推進しております。

今後、当科における教育、診療、研究のさらなる向上のために、一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。



腎臓・膠原病内科スタッフ

泌尿器科  
小児泌尿器科担当  
医師 松岡 弘文

## 小児泌尿器科について

### 小児泌尿器科とは何でしょうか？

この福大病院ニュースを手にとられた皆さんは、小児泌尿器科という言葉を目にしたことはあまりないと思います。われわれ小児泌尿器科医は泌尿器科に所属していますので、もともと男女の腎・尿路(腎盂・尿管・膀胱・尿道)と男性生殖器(陰茎・陰囊・精巣・前立腺など)の疾患を扱う外科系のスペシャリストです。小児泌尿器科は同領域の小児版ですが、小児では生まれながらの先天性異常(形態や代謝の異常)が多いのが特徴で、決して少なくはありません。単に体や臓器が小さいというだけでなく、疾患の性質自体に違いがあります。特殊な検査が必要であったり、方法に工夫が必要です。

また、成長とともに自然に治癒するものがあることも大きな特徴です。しかし一方で、治療が遅れると体の成長に影響することもあります。そのため治療時期、特に手術の時期や

方法を定める上で、大人とは違った判断を必要とし、注意深い経過観察が必要になります。このようなことから、泌尿器科では、開設以来小児泌尿器科を専門にする医師をおいて診療を行っています。

### 当科の特徴

小児泌尿器科医は小児科医、小児外科医と協力して診断・治療にあたりますが、出生前から腎・尿路疾患が見つかることがありますので、産科医との連携も重要です。当院には、総合周産期母子医療センターが併設されていますので、出生直後の新生児の腎尿路異常も多く扱っています。

一方で、小児期から診ている腎尿路疾患が、成人後までキャリアオーバーすることもあります。当院はこども専門病院ではなく大学病院ですので、その特徴を生かして成人後も一貫して追跡し、検査・治療を継続することができます。

また、腹腔鏡手術の盛んな大学病院の特徴を生かして、小児の腎臓および膀胱の手術にも腹腔鏡手術を導入しています。泌尿器腹腔鏡技術認定医と小児泌尿器科認定医のもと、水腎症に対する腹腔鏡下腎盂形成術や膀胱尿管逆流に対する腹腔鏡下逆流防止術も行っています。(年齢や体格の制限があります。)

小児泌尿器科は外科系の診療科ですので、多くの患者さんに入院診療が必要です。当院では、長らく泌尿器科病棟に小児専用室を設けて対応してきました。昨年、新館増設に伴い本館3階南病棟が外科系小児病棟として改装され、新たにオープンしました。小児泌尿器科の患者さんはこちらへ入院しますので、アメニティについても随分良くなりました。

### 小児泌尿器科が扱う主な疾患

- |                  |                                       |
|------------------|---------------------------------------|
| 1)先天性水腎症および巨大尿管症 | 8)尿路感染症                               |
| 2)膀胱尿管逆流と逆流性腎症   | 9)包茎                                  |
| 3)停留精巣           | 10)精巣捻転                               |
| 4)尿道下裂           | 11)精巣上体炎                              |
| 5)陰嚢水腫・精索水腫      | 12)性分化異常症                             |
| 6)夜尿症            | 13)その他:多種多様の先天性疾患、血尿、下部尿路機能異常、精巣静脈瘤など |
| 7)頻尿・尿失禁         |                                       |

### 御注意頂きたいこと

- ①男児が陰嚢内を強く痛がるときには翌日まで受診を待つてはいけません。
- ②小児の発熱の原因が尿路感染であった場合、膀胱尿管逆流や水腎症など尿流の停滞する病気が潜んでいることがあります。
- ③尿道や外陰部の先天性形態異常に対しては、外科的に治療することができる場合があります。



図1 左巨大尿管症(検査翌日にも造影剤が残存)左の腎から尿管が巨大に拡張している。後日、下腹部を切開して尿管下端的狭窄部を切除、拡張部分は縫縮して膀胱に再吻合した。